

Rec'd PCT/PTO 03 MAY 2005

PCT

REC'D 16 DEC 2004

WIPO

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条)

[PCT 36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号 JASIA-1-PCT	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/14118	国際出願日 (日.月.年) 05.11.2003	優先日 (日.月.年) 05.11.2002
国際特許分類 (IPC) Int. Cl. G09B29/00		
出願人 (氏名又は名称) アジア航測株式会社		

1. この報告書は、PCT 35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条 (PCT 36条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a ☐ 附属書類は全部で ページである。

☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT規則70.16及び実施細則第607号参照)

☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT 35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 04.06.2004	国際予備審査報告を作成した日 29.11.2004		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 松川 直樹	2T	8804
電話番号 03-3581-1101 内線 3264			

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

- ☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____ 項*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ 項*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ/図*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ/図*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	2, 3, 5, 6, 10-12	有 無
	請求の範囲	1, 4, 7, 8, 9	
進歩性 (IS)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1-12	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-12	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1: 篠原克幸他, ベクトル場を用いた画像解析, テレビジョン学会技術報告, 1993.05.20, 第17巻, 第28号, p11-16

文献2: 喜久川誠他, ソリッドテクスチャリングを利用した3次元任意画面上における線積分量み込み法, 画像電子学会誌, 2000.07.25, 第29巻, 第4号, p283-291

請求の範囲1, 4, 7, 8, 9に対して

文献1には、「カラー画像は2次元の画素平面に数次元の色ベクトルが定義されているベクトル場として考えることができる。そこでRGB信号をCIEの $L^*a^*b^*$ 均等色空間に変換し、カラー画像を画素平面 V_2 から V_3 へのベクトル場($F: V_2 \rightarrow V_3$)として考えると、画素の特徴についてベクトル場の立場から考察することが可能となる。」(第11頁左欄第5~10行)、「エッジ付近でのベクトル場の変化を、Jacobian行列の最大値とそれに対応する特異ベクトルにより考察する」(第11頁左欄第12~13行)、および、「微分行列の最大特異値によるエッジ検出を行い、輝度信号に対するPrewittの微分オペレータによるエッジ強度、および雑音に対する耐性について比較した。」(第11頁左欄第5~10行)と記載されており、微分することで、沈下度、浮上度、および、斜度と同等のエッジ強度を検出しており、請求の範囲1, 4, 7, 8, 9の発明を含んでいる。

請求の範囲2, 3, 5, 6に対して

文献2には、「面上の任意の位置におけるベクトルは、この位置を含む三角形の頂点に定義されているベクトルを補間することで求められる。そのためには交点を含め、流線上の各位置が落ちている三角形を特定する必要がある。・・・テクスチャ座標系における物体表面上での流線計算法を図6に示す。ソリッドノイズの計算に使われた整数値を座標とする点で構成される格子を物体を覆う3次元格子とみなすと、物体面上のある点における流線はCabralらのオリジナルLIC法と同様に出發点から格子のセルごとにベクトルに沿って伸ばした線分をつなげた折れ線で近似することができる。」(第287頁右欄第1~22行)、「ベクトルの法線方向成分を、色情報を使って可視化した例である・・・成分の面に対する方向を色相に、大きさを彩度にそれぞれマッピングしている。濃い緑は面に向かう強い流れを、薄い赤は面から離れる弱い流れを示している。」(第290頁右欄第14~19行)と記載されており、座標点を連結し、面の局所領域での片面の位置を検出しており、文献1の発明の構成とあわせて請求の範囲2, 3, 5, 6の発明とすることは、当業者の容易になし得たことである。

請求の範囲10, 11, 12に対して

文献2には、上記指摘した記載に加えて、等高線の間をメッシュ化することが記載されており、文献1の発明の構成とあわせて請求の範囲10, 11, 12の発明とすることは、当業者の容易になし得たことである。